

製品名: Cdc37 (リン酸化 Ser13) ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab04426**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ICC/IF,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	リン酸化
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:100-1:300,ICC/IF 1:50-1:200,ELISA 1:10000-1:20000
分子量	44kDa

抗原情報

遺伝子名	CDC37
別名	CDC37; CDC37A; Hsp90 co-chaperone Cdc37; Hsp90 chaperone protein kinase-targeting subunit; p50Cdc37
遺伝子 ID	11140.0
SwissProt ID	Q16543
免疫原	抗血清は、ヒト CDC37 の Ser13 のリン酸化部位付近の合成ペプチドに対して作製された。アミノ酸範囲: 1-50

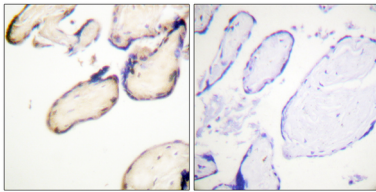
背景

この遺伝子によってコードされるタンパク質は、酵母 (*Sacchromyces cerevisiae*) の細胞分裂周期制御タンパク質である Cdc 37 と高い類似性を示す。このタンパク質は、細胞シグナル伝達において特異的な機能を持つ分子シャペロンである。CDK4、CDK6、SRC、RAF-1、MOK、eIF2 α キナーゼなど、様々なタンパク質キナーゼや Hsp90 と複合体を形成することが示されており、Hsp90 を標的キナーゼへ誘導する上で重要な役割を果たすと考えられている。[RefSeq 提供、2008 年 7 月],機能: 多数のキナーゼに結合し、Hsp90 複合体との相互作用を促進するコシャペロンとして、キナーゼの安定化と活性促進に寄与する。 ,PTM: UBE2I によって恒常的に SUMO 化される。 ,類似性: CDC37 ファミリーに属する。 ,サブユニット: Hsp90 と複合体を形成する。 AR、CDK4、CDK6、EIF2AK1、RB1 と相互作用します。

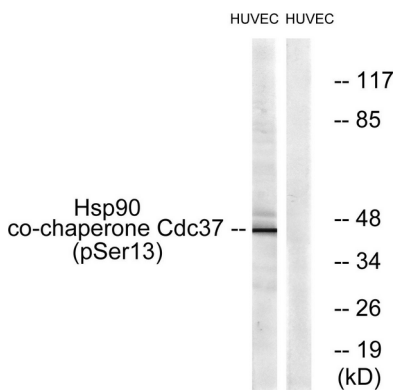
研究分野

PI3K/Akt

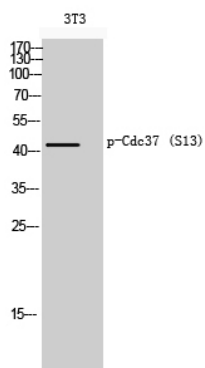
画像データ



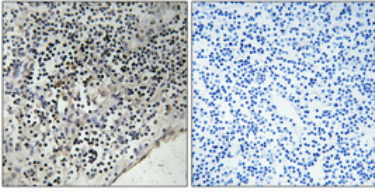
CDC37 (リン酸化 Ser13) 抗体を用いたパラフィン包埋ヒト胎盤の免疫組織化学染色。右の写真はリン酸化ペプチドでブロッキングした状態。



CDC37 (リン酸化 Ser13) 抗体を用いた HUVEC 細胞ライセートのウェスタンブロット解析。右レーンはリン酸化ペプチドでブロッキングされている。



リン酸化 Cdc37 (S13) ポリクローナル抗体を用いた 3T3 細胞のウェスタンブロット解析



パラフィン包埋ヒト肺癌の免疫組織化学染色。抗体は 1:100 (4°C、一晚) に希釈した。抗原賦活化には、高圧高温トリス EDTA (pH8.0) を使用した。抗体から得られたネガティブコントロール (右) は、免疫原ペプチドで前処理した。